

# 行事報告 Event report

## 令和7年度 愛知県母子寡婦福祉大会

日時：令和7年12月13日（土）

会場：ウィルあいち 愛知県女性総合センター ウィルホール

講演：「QRコードの開発物語～ものづくりで変わる世界～」

講師：株式会社デンソーウェーブ 主席技師 原 昌宏 氏



### 中日賞 北名古屋母子寡婦福祉協議会 吉崎 美保子

本日は、栄えある中日賞を頂戴することとなり、自分の80数年の長いようで短い歩みを振り返ってみたいと思います。

結婚して娘2人に恵まれ、念願だったマイホームを建てると同時に義父を呼び同居の運びとなって順風満帆な生活を送っていた矢先、夫に病変が見つかり入院となりました。すぐに手術を受け完治したかに思われましたが、直腸がんでした。本人に告知する時代ではなく、私1人の胸に秘め夫の看病や生活するのは大変心苦しいものでした。

その1年後、再発手術を受けましたが、夫が帰宅することは、かないませんでした。上の娘が中学2年生、下の娘が小学6年生の時でした。さあ、これから娘2人を育て義父の面倒もみていかねばならないという、なんとなく社会から取り残された漠然とした不安に苛まれていたある日、ふと見た師勝町(当時)の広報に、母子家庭のみが参加出来るバス旅行の募集記事を目にしたのです。

行き先は太秦映画村でした。塞いでばかりいてもいけないと考え参加してみることにしたら、なんと師勝町からは3台のバスが出て、沢山の母子家庭の方々がいることに先ずびっくりすると同時に、皆さんの生き生きとした表情やしぐさに衝撃を受け、こちらまではつらつとした気持ちで帰ってくるのが出来た記憶があります。

そしてまた、その日の帰り道、渋滞で帰宅が遅くなり「帰ってから夕飯の支度をしないといけないな」とめんどくさい気持ちを持っていたところ、師勝町が夕食の用意までしてくれていたことがとても印象に残っております。

本題に帰り、これから先の生活を考えるにあたり、働かなければならないと同時にまだまだ子どもたちの学校生活のフォローもあるのであるべく家に近いところで働き口を探していたところ、運良く自転車で5分程の就職先を見つけることができました。

無事に就職は出来ましたが、この時に思ったことが「生活する為だけに働くのではなく、ひいては社会のために役に立つ人になろう」と決めて懸命に仕事に没頭しました。最終的には50人あまりの社員をまとめあげるリーダーとなり、定年まで勤め上げました。

この間に、母子寡婦連合会に入会している会員から師勝町、今は北名古屋市になりましたが、その会長職まで拝命して、自分が体験したかつての楽しかったバス旅行やボーリング大会、クリスマス会などを企画運営して会の皆様に喜んでいただけたと自負しております。

また、会社員や母子寡婦役員をしている間に、趣味として、まだ夫が存命中から始めていた琴を極めようと仕事が終わってから、琴の稽古に通っており、何もかも忘れて没頭する時間が楽しみでした。「いつか、自分も人様に教えることができればいいな～」という希望を持ち励んでおりました。そして今では師範となり弟子を持つまでの腕となったことは自身の誇りとなっております。

本日、このような立派な賞をいただくのに、わたくしがふさわしいかどうか定かではありませんが、夫が他界してからの40年間の間に、本来なら面倒をみる義理は無いと、自分の兄弟には言われたが、最愛の夫の父親を見送り、娘2人も独立して、それぞれの道へ進みました。周りの人に助けられ、良い友にも恵まれ楽しいこと、つらいこと、悲しいこと、全部が懐かしく、良く頑張ったと、自分を褒めてやりたいです。

これから残りの人生、子どもたちに迷惑をかけずに、自分も楽しく、人様にも楽しんでいただけるように人生を全うしていきたいと思っております。本日は誠にありがとうございました。

### 中日賞

小牧市母子寡婦福祉協議会 加藤 安江

私は夫の暴力に耐え兼ねて家を出たのは38才の時、昭和51年10月10日でした。子どもが中学1年13才の時です。一緒に住むようになってから暴力が始まり口の暴力は勿論のこと殴る、蹴る、の暴力で肋骨骨折、腰の骨が曲がる、顔はあざだらけ、そんな状態で病院や接骨院へよく通いました。

そんな中で性的暴力もあり、男の子が一人授かりました。昭和39年7月生まれです。子どもが2～3才になって子ども目の前で私を殴ったり、蹴ったり、机をひっくり返しているのを見て育ちました。小さい頃は私の足にしがみついて2人で泣きましたが小学高学年になると、私に「早く逃げて」と言ってドアを必死で押さえてくれ、2人ではだして勝手口から逃げたこともたびたびありました。

そんな生活が続き子どもが中学1年の10月、私を「逃げて」と言って父親に向かっていくのを見て私は必死でとめて2人で外へ飛び出し、それ以後一度も帰っていません。妹の近くのアパートを借りて生活を始めました。

会社へ1年程勤めましたが、会社が倒産してしまいました。仕事を探していたところ病院の給食を募集していることを聞いて、即面接を受けました。明日からでも来て欲しいと言われ2日後から給食の仕事を始めました。朝食10人程、昼食20人程、夕食10人程の食事の用意を1人で行いました。

少し慣れた頃、夕方の診療の手伝い(リハビリの助手、受付等)忙しいところの手伝いもしました。病院の給食の仕事に加えて、朝5時位に起きて近くの寮の朝食作りに2時間働き、土曜日の夜は20時～深夜1時までラーメン屋さんの洗いの仕事をして本当にながむしゃらによく働きました。病院勤務正社員24年、午前中のパート12年、76才迄勤めました。

息子も父親と一緒にいる時により明るくなり、のびのびと成長して色々な面で私を助けてくれました。昨年は60才で1回目の定年退職をし、又新しい会社に勤めております。

私は高齢になり身体の不自由もありますが4年程前から大正琴を習い始め、今ではそれが生きがいのように最近では先生と一緒にひけるようになり練習日は待ち遠しく楽しんでおります。



中日新聞社会事業団賞 受賞  
おめでとうございます